

くぼた 旧町名物語

まちの生い立ち




荻津勝孝「秋田街道絵巻(千秋美術館蔵)...19世紀初頭の土崎湊。上酒田町から肴町付近。浜辺の商人、米俵を積んだ船、船大工の姿も見えます。町のざわめきが聞こえてきそうな光景です。

港まちの土崎編

久保田のまちの礎 ちから溢れるまち

転封の佐竹氏 湊城入城

慶長五年(一六〇〇)九月、関ヶ原の合戦。その戦いの二年後、佐竹義宣は、常陸(茨城県)から秋田に国替えとなりました。

義宣は最初、土崎にあった湊安東・秋田氏の湊城に入りました。翌年には久保田城の建設に着手しています。湊城の敷地が狭かったこと、その立地が軍事上有利な地形に恵まれていなかったことなどがその理由であると言われています。

さらに義宣は久保田の城下町(外町)をつくるため、土崎の裕福な商人たちを移住させました。外町の町名も、肴町、城町、新城町、酒田町、鍛冶町など、土崎の町名にちなんだものが見受けられます。

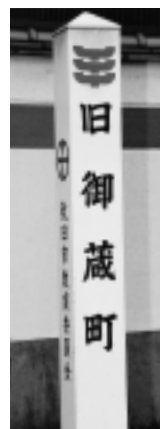
一方、移住によって再編を余儀なくされた土崎のまち。それでも慶長二十年ごろまでには、上酒田

町、下酒田町、新城町、永覚町、加賀町、小鴨町、肴町、林町(林とは藻の一種のことだそうです)の町割りが行われていたとされ、この八つの町は「湊八丁」と呼ばれました。その後、御蔵町、穀保町などが加わっていきます。

これらの町名にも、遠方との人的交流、水辺、米などの荷を納める倉庫などがイメージでき、土崎がまさに港の町であることがうかがえます。

衰退から再興へ 港つこの底力

さて、義宣が久保田の城に「引越し」し、湊城は廃城、それまで土崎の発展に寄与していた有力商人もいなくなり、まちは一時衰退の様相を呈しました。しかし、残ったまちの人たちは、再びかつてのにぎわいを取り戻そうと、それまでも増して、交易に力を入れたようです。



土崎湊からは為登米と呼ばれる藩の米、一般の商用の米、大豆、小豆、麦、そば、菜種などが越中や能登、大阪などへ運ばれ、帰りの船には、久保田城下の通町、大町、茶町などで売られることとなる衣類、薬品、茶、雑貨などが積まれました。

また、日本海沿岸各地の港を経由し、瀬戸内海を通り、大阪へと通じる西廻り航路を通る船、いわゆる「北前船」が、港の繁栄の一役を担い、まちは徐々に活気づいていきました。港の繁栄は「久保田の本町よりも湊町の方すぐれたり」(古河古松軒「東遊雑記」と言わされるほど勢いのあるものでした。

土崎のまちは、久保田の財政を力強く支える礎として、その大役を務めていたのです。

城下町
御休み処



曳山が動き出すまで

7月20日、21日は、土崎神明社の祭典「港曳山まつり」。今年も22台の曳山(ヤマ)が出る予定です。

曳山はいろいろな役割の人が力を合わせることによって、初めて動きます。曳き手(曳子)はもちろん、長い棒で車輪を操る「振り棒」、そして囃子、踊り、曳山の上で棒を持ち、電線や木の枝をよけている人も見えます。また、警護の役目は、事故防止には欠かせません。

役どころのひとつに「音頭取り」があります。音頭取りの役目は、曳山の安全運行管理と曳山が出発するときに歌う「音頭上げ」の調子とり。歌は音頭取りの「ドードーオドコセ」で始まります。途中、曳子とのかげ合いがあって、曳山を引く人たちの気持ちはだんだんと一つになっていきます。

音頭上げの勇壮な調子。“観客”から“祭り人”になりたい、と思わせる一瞬です。

お祭りの様子は、市のホームページでもご覧に...いえ、ぜひ足を運んでみてください。間近で港っこたちのエネルギーを感じてください。



江戸時代の前は 湊安東・秋田氏

久保田の城下町建設や経済発展に大きく貢献した土崎の人々。土崎には、佐竹氏が秋田に来る前からたいへん長い歴史があります。

佐竹氏と入れ替わるように常陸の宍戸に移った「湊安東・秋田氏」も、その歴史を語るうえで重要な人物です。

応永の初め(一三九四)〜一四二八ごろ、安東鹿季が「秋田の湊を討ち、湊城主になった」のがその始まりといわれていますが、安東氏は土崎を拠点に戦国の世を生

き、まち発展のけん引役となりました。湊安東・秋田氏が治めた土崎の港は、戦国期の海事に関する慣習を条文にまとめた「廻船式目」の中で、「三津七湊」のひとつとして名を連ねるほどでした。土崎のまちは、古くから海運の要所として栄えていたのです。



湊城跡(土崎街区公園)には湊安東氏の碑が建つ

——祭りの日、町のあちらこちから、音頭上げの音が響き始めます。曳山の出発の合図です。老いも若きも「港っこ」たちは、その声を聞いて鳥肌をたて、武者震いをします。曳き綱を持つ手に一番力が入るときです。

七月二十日・二十一日は港曳山まつり。一度衰退したまちを見事に再興させたエネルギー。曳山が動き出すとき、その一端を垣間見ることができるような気がします。

三津七湊：当時、国内で最も重要とされた港町や港。三津には堺や博多、七湊には十三、輪島、三國そして秋田(土崎)などが挙げられています。